

あとがき

筆者が結合価理論の研究を始めたのが1983年であり、以来あしかけ15年の歳月が流れた。本書で扱ったのは結合価理論を日本語に適用したとき、生じる様々な問題点を解決することによって、結合価による日本語動詞の文型の設定・基本動詞1000語の記述分析ないし階段図分析法の創出に関する研究であり、これと深い関連のある単語結合の研究は次の機会に譲りたい。

本書は多くの研究成果を取り入れた。とくに VINOGRADOV(1954)と仁田(1980)と奥田(1983)と石綿(1983)と菅野(1993)と在間(1994)に負うところが少なくない。本書の見解の一部には、既発表の論文を大幅に修正したものが含まれているが、参考のためにその出所を記す。もともと幾つかの論点は本書の複数の章に分断されて現れることを断っておく。

- ・1986c 「結合価文法の研究(1)——石綿敏雄・荻野孝野の日本語用言結合価表を批判して」『東呉外語学報 2』台湾東呉大學外国語学院【第3章・第6章】
- ・1986d 「関係節の時制の問題点——形容詞かコピュラの主語を修飾する場合」『日本語学』7月号、明治書院【第12章】
- ・1989c 「結合価文法から見たもう一つの必須成分」『東呉日本語教育 12』台湾東呉大學日本語文学系【第3章】
- ・1990b 「結合価文法から動詞の三つの必須成分」『東呉外語学報 6』台湾東呉大學外国語学院【第4章】
- ・1990c 「動詞結合価の記述と分析への試案」『東呉日本語教育 13』台湾東呉大學日本語文学系【第3章・第6章・第8章】
- ・1991a 「『現代日漢大詞典』の動詞価の記述と分析」『台湾日本語文研究会論文集 2』台湾日本語文研究会【第9章】
- ・1991c 「動詞価成分の多様性」『東呉日本語教育 14』台湾東呉大學日本語文学系【第5章】
- ・1992b 「長文の階段図分析法」『台湾日本語文研究会論文集 3』台湾日本語文研究会【第10章】
- ・1993b 「日本語の三つのテンスの語用論」『台湾日本語学報 4』台湾中華民国日本語文学会【第16章】
- ・1993e 「名詞節中の名詞句の主題化」『国立政治大學学報 67』台湾国立政治大學

【第11章】

- ・ 1993f 「動詞項の分析」『日語教学国際研討会論文集』台湾東吳大學【第2章】
- ・ 1994a 「新聞日本語の見出しの語法」『国立政治大學学報 68』台湾国立政治大學【第7章】
- ・ 1994b 「修正結合価文法の文構造」『国立政治大學学報 69』台湾国立政治大學【第9章】
- ・ 1994c 「形式副詞『として』の一考察」『台湾日本語教育論文集創刊号』台湾中華民國日語教育学会【第14章】
- ・ 1995c 「形式副詞としての『など』の用法」『国立政治大學学報 70』台湾国立政治大學【第13章】
- ・ 1995d 「『て』で始まる三節複文の一考察」『国立政治大學学報 71』台湾国立政治大學【第15章】

学位論文の提出に当たってはまず阪田雪子先生と湯本昭南先生に感謝の意を表したい。留学生時代から今日に至るまでのご恩情は何の誇張もなしに終生忘れられないだろう。王育徳先生との出会いは私にとっては運命的ですらある。先生からは言語とは何かということを教わった。次に常に暖かい目で見守り続けてくださった中嶋嶺雄学長と齋藤齊氏には感謝しなければならない。私にとってはお二人の温かい心の有り難さと尊さが痛切に体感されるものである。

本書がこのような形で考えをまとめられたのも、ひとえに菅野裕臣教授をはじめ、井上史雄教授・間進教授・富盛伸夫教授・早津恵美子助教授の温かいご指導のお蔭である。先生方から頂いた厳しい研究姿勢と貴重なコメントは私の一生を通してのかけがえない心の宝である。これらの学恩は千万言を以てしても表し得ぬことである。とくに帰台後、たびたび国際電話なりファックスなりで拙稿の不十分な点を振気よく指摘くださった菅野裕臣先生の温かいご教示とご激励にここで改めて尊敬と感謝の意を表したい。また瀧廷池先生・仁田義雄先生・宇根祥夫先生・成田節先生・望月圭子先生にも非常に大きな学恩を蒙っている。

最後に物心両面において長期にわたり我が儘などを大目に見てくださった糟糠の妻 Lehun の献身的協力に感謝したい。

結合価文法論考

1996年12月9日

著者	趙順文 (TIO Sun Bun)
発行者	葉 德 峰
出版社	台灣立昌出版社 台北市金山南路 1-77-3 F 電話 +886-2-2341-1932
